

緑ネット通信

No.87

緑のネットワーク・まつど

代表：藤田 隆
 年会費：1000円
 口座番号：00170-9-696174
 連絡先：高橋盛男 090-2935-9444

都市の緑を残すためには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は、みどり特に樹林の保護・保全を願う人やグループと連携しその輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

松戸の緑再発見ツアー

戸定が丘から園芸学部の洋風庭園を経て浅間神社の極相林へ

藤田隆

2月1日松戸駅西口デッキに集まった参加者は20人。今回のツアーは「みどりについて考える」をテーマに掲げたこともあって、挨拶にあたって「歩いているときにひとつでもふたつでもみどり、植物、昆虫について印象に残ったものを答える」という宿題を出しました。



新しくできた雨水庭園の説明をシティーガイドから聞く。建物の雨を受け止めて植栽へみちびく設計になっているようだ。

最初の目的地戸定が丘歴史公園の駐車場入り口には紅白の梅の古木がほころび始めていました。この木は戸定邸庭園を再現整備する際に戸定邸からここへ移植されたものです。

戸定邸の前で「まつどシティーガイド」の3名と合流、ココから千葉大園芸学部庭園までの案内をお願いしました。公園の東屋は晴れた日なら江戸川の流れの先に富士山がくっきりと見え、葛飾が眺望できる素晴らしい展望スペースでした。

通用門から隣り合う園芸学部庭園に入りました。目の前に広がったのはフランス式庭園です。沈床式による空間形成により庭園をより広く見せ段差をつけることで植栽の配置にもこだわりが感じられました。周囲の植栽にはチャボヒバ、ユリノキ、マルバトゲナシニセアカシアがありました。

イタリア式庭園は傾斜地の狭い空間を利用する工夫で3段階に高さを違えて植栽が施されていました。斑入りのタギョウショウは珍しさもあって、皆さん手に取り眺めて、感触を確かめていました。

ガイドさんと別れて常磐線の跨線橋を超えた先に弁財天宮があります。かつては湧水が大きな池を作っ

ていたそうです。

浅間神社境内の森は千葉県の天然記念物で、これ以上遷移することのない状態とされる極相林です。ヤブニッケイ、アカガシ、タブノキ、ツバキの古木などの常緑樹や太い藤蔓などに包まれた鬱蒼とした境内です。ほとんどの人は100段以上の階段を上り、お参りました。

その後、小山の眼鏡橋を見て坂川沿いを歩き松戸神社へ。最後に参加者に今日印象に残ったものを聞いたところ、園芸学部で咲いていたエリカ、カシの種類が分かった、ユリノキ、極相林、ヤブニッケイの香り、緑色の花びらの桜、ヒマラヤスギ、ナギ、ツバキの大木、ダイオウショウなどが上がりました。



寄稿

森を愛して 20 年 ただ淡々と

松戸里やま応援団 一起の会 高木喜久雄

里やまボランティア入門講座の 1 期生が立ち上げた「一起の会」は昨年で 20 周年を迎えました。前代表の高木さんに、その 20 年を振り返って頂きました。

一起の会と「八ヶ崎の森」のはじまり・・・

今からほぼ 20 年前、2003 年から 2004 年にかけて、市長の諮問委員会である緑推進委員会が主催して「里やまボランティア入門講座」が開かれた。森の地主さんの苦労話が聞けるなど、ユニークなものであった。

これに参加したメンバーは「せっかく集まったのだから」といってボランティアグループを立ち上げて「松戸里やま応援団一起の会」と名乗った。しかし、主催者側はそんなこと全く予想だにしておらず、何の対応もできなかった。実際、我々もどこから手をつけていいかわからないスタートであった。とにかく剪定の仕方から勉強しようと始めた。そうこうしているうちに、セミナーの時に話しをしてくれた地主さんが、「俺の森だったら入ってもいいよ」と言われて、これに飛びついた。それが八ヶ崎の森である。



2004 年 10 月不法投棄ゴミの片付け

喜びもつかの間、ショックな出来事が・・・

八ヶ崎の森は、入り口に「一神会」という宗教団体があり、その脇を抜ければ行けないし、また警察署の裏という位置でもある。森そのものも急な斜面林であって、どうにも活用できるとは思えない。だから森として残っていたのであろう。1 ヘクタールにも満たない小さな森であるが地主さんは 6 人。しかし、真ん中の地主さんからは OK がもらえず、ぶった切られた形でのスタートであった。それでも、フィールドを手に入れた我々は大喜びで活動を始めた。



伐採事件後の処理を終え 2010 年、地域の市民にも呼びかけての植樹祭を行った

5 年たった 2008 年 12 月、大事件が起こる。活動日に森へ行くと、なんと！斜面部分の木々が切られて、森でなくなってしまうのではないか！！

後でわかったところによると、斜面部分の下にある民家の人たちが、森の木々の日陰になる、折れた枝が車の上に落ちて傷をつけるなど様々なクレームをつける。そして、お金は我々(住民)が出すから木を切らせてくれと言ってきたという。地主さんはほんの数メートル切るだけだろうと軽く考えて OK したとか。しかしお金を出す方の住民側はそんなふうには考えない。業者を使った作業はあつという間に斜面林のほとんどを伐採してしまったのである。八ヶ崎の森を「保護樹林」に指定している松戸市役所もびっくりの出来事であった。

面積が約半分になってしまったワケ

活動を始めたときは、真ん中の地主さんからは OK がもらえず、ぶった切られてのスタートであったが、その後 OK がもらえて「良かったあ」と思っていた。ところが 2 人の地主さんが相次いで森を売却してしまった。地続きの宗教団体がすぐ買い取ってくれるらしい。

我々に八ヶ崎の森を紹介してくれた地主さんは「俺は絶対に売らない。防波堤になるんだ」と言っていたが、相続が行われるとすぐ売られてしまった。

今の時代、何の価値も生まない森は売り払い相続税の支払いに充てるのだそう。だから、結局 4 人の地主さんが森を売り、現在の八ヶ崎の森はスタート当初

からすると半分以下になってしまった。

こうしてみると、八ヶ崎の森は都市部に残された森の困難さを象徴的に表していると言ってい

現在の森づくりは・・・

一方、そうした八ヶ崎の森で、ず～っとボランティア活動を続けてきた我々「一起の会」、率直に言って淡々と続けてきた。

伐採された斜面林の復旧努力もしてきた。我々は針葉樹と広葉樹の混じった混交林にしたいところだが、お金を出して伐採したところをそんな森に復活させられては住民の了解を得られない。そこで目指したのは、住宅側はアジサイなどの低木、少し上は中木と、いずれも花や実を楽しめる木で、お庭的感じの中低木の森づくりであった。

町会の方々、森へ遊びに来ていた保育園児、ボランティア仲間、みどりと花の課をもまき込んでの植樹事業だった。15年を経て大きく育った樹々の生長を見守りながら実生木などの整理をし、森の中に太陽も差し込み、小さな森ではあるがそれなりに整備できているのではないと思う。

新しいメンバーと新しい活動

どこのボランティアグループとも同じで、当初からのメンバーは誰もが高齢になってきている。一方今も続く里やまボランティア入門講座だが、その修了生が活動できる新たな森の確保が難しくなっている。だから、講座修了生の多くは、活動中の先輩グループのメンバーに加わるようになってきているのだ。そして今、20年以上も前に発足した一起の会にも新しい仲間ができています。これは、入門講座が20年以上も続いているからこそのことと言ってい



明るい森には秋の七草フジバカマも植えた。アサギマダラがやってくる

新しいメンバーを迎えて我々の活動にも広がりが生まれた。オープンフォレストではスタンプラリーで森の案内に楽しみの要素を加えた。また蔓のリースで輪投げゲームを準備して今までの遊具とは違った森遊びを子ども達に提供している。森の整備活動とは別に木工、薪割りといったメンバーたちの興味や特技を活動とした「森のクラフトの日」を設定して、第2倉庫やテーブル製作、ホルツハウゼン等、実益？と楽しみを兼ねた仕事も楽しんでいる。

楽しくなければボランティア活動ではない！

始めた頃は森の整備作業そのものが楽しかったが、森も小さくなり作業内容も限られてきた今、森を楽しむ活動を作り出していける余裕ができた。まだまだ新たな森の楽しみが見つかりそうな期待ももてる。

森はその中にいるだけで楽しい所なのだ！

女性も活躍！

イメージとしては何となく男性的な感じの里やま活動ではあるが、女性の参加も多い松戸の里やま活動である。女性が多いのはとにかくうれしいことだ。我々の一起の会の現代表である佐竹さんも女性であることを特記しておこう。



森から出た材は薪に、乾燥はヨーロッパ風 積み上げたホルツハウゼン



植樹したハコネウツギが森に彩りを添える

冬の活動あれこれ…各森の報告書より…

- 12.18 使われた巣箱の掃除と付け替え (野中の森)
- 12.27 臨時活動で市道の落ち葉掃除 (溜ノ上の森)
- 1.5 梅林剪定作業
(関さんの森) 写真右
- 1.12 ぷらっと子どもの森
(囲いやまの森)
- 1.25 里山応援団技術安全
部会によるチェーンソー講習会 (石みやの森)
- 1.26 子どもとまつど主催〈森を遊ぼう!〉～森
は遊びの宝庫～秘密基地づくりも (甚左衛門の森)
- 2.4 こども園児来森 (関さんの森)
- 2.4 ツリーハウスプロジェクト始動
- 2.4 樹木調査 (みなみの森)
- 2.6 通学路上の枯れ枝の除去 (いいなの会)
- 2.10 ヤマユリの咲く斜面の草刈り (芋の作の森)



- 2.17 樹名板をつける木の
選定 (いいなの会)
- 2.18 幼稚園児来森 (しんや
まの森)
- 2.23 紙芝居の客席づくり
(野うさぎの森) 写真左

- 2.26 全員で階段の補修
(八ヶ崎の森)
- 2.27 幼稚園児ジャガイモ
植え (石みやの森)
- 2.27 市道の掃除
(芋の作の森) 写真右



総会のお知らせ

5月6日(火休)16時より2025年度総会をZoomにて行います。会員の皆様是非ご参加ください。参加の場合は代表藤田までご連絡ください。

Tel.090-4078-3703 mtgrla@coda.ocn.ne.jp

～しぜんのコラム 60～

続・ホソミイトトンボ

成虫のまま冬を越したホソミイトトンボのこと。秋～冬は枯葉色に擬態していたが、4月になると鮮やかな水色に変わり、水辺に現れて交尾する。



ホソミイトトンボ交尾態 2024.4.14 21世紀の森と広場(千駄堀池)

オスは精子を渡した後もメスを解放せず、メスは連結されたまま水に浮かぶ枯葉などに産卵する。



ホソミイトトンボ連結産卵卵 2024.4.14 21世紀の森と広場(千駄堀池)

そう、ホソミイトトンボの卵は、池に浮かぶ葉や枯葉の中にある。自然尊重型の公園ならば、池に浮かんだ枯葉にも絶滅危惧種の命が宿っているのだから、枯葉はゴミと見なさずに、ある程度はそのまま残してほしいものである。

(山田純稔)

★松戸のみどり再発見ツアー (観察学習会) No.68

オープンフォレスト in 松戸プライベート

「湧き水をはぐくむ台地のみどりを訪ねる」

千駄堀の低地には今も湧水があります。台地上に広がる樹林地を散策しましょう
千駄堀湧水～オリンポスの山～しんやまの森・芋の作の森～21世紀の森と広場(解散)

4月19日(土)9:30～12:30 (小雨実施) 参加費 300円 (会員は100円)

集合 京成松戸線八柱駅改札口 9:30集合

申込み・問合せ: 090-4078-3703 (藤田 18時以降)

※参加は申込制・先着30名 (4月1日より受付)

持ち物 飲み物、雨具

その他 歩きやすい服装でどうぞ